

① 下呂地域交流会

日本三名泉「下呂温泉」で語ろう 中山間地域で元気な楽農楽食



下呂地域は、霊峰御嶽山をはじめ周囲に急峻な山々がそびえ、飛騨木曾川国立公園や県立自然公園などが位置する自然豊かな地域です。千年以上の歴史を持つ下呂温泉は、古くから名湯として知られ、有馬、草津とともに「天下の三名泉」と称されています。

約9割の面積を森林が占める典型的な中山間地で、狭小で傾斜のある農地が多いですが、夏季冷涼で1日の寒暖差が大きい気象条件を活かし、米、トマト、ほうれんそう、銘柄牛「飛騨牛」の生産が盛んです。

また、むらづくりや集落営農の取組みも活発で、地域一体で農山村の活性化に取り組んでいます。



下呂温泉噴泉地 写真提供 下呂市



市営の公共牧場を利用した夏山冬里方式

11月10日(木)／情報交換会

全体会 (会場:岐阜メモリアルセンター) 15:30終了
情報交換会 (会場:水明館) 19:00~21:00
宿舎 (水明館)

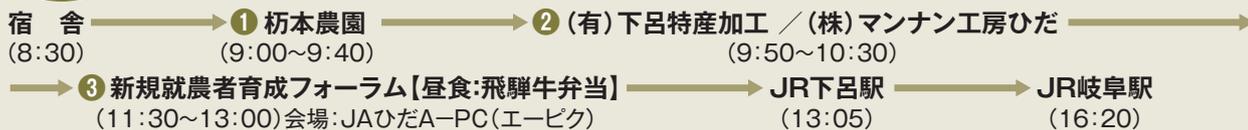
11月11日(金)／現地研修会(全4コース)

コース

1-1

山あいで元気な南飛騨の夏秋トマト産地とこんにゃく加工コース

夏秋トマトの新規就農者育成と産地発展に向けた取組み、地元産のこんにゃく加工など6次産業化の取組みを紹介します。



① 朽本農園(下呂市)



飛騨トマトの生産や観光トマト園の経営のほか、新規就農者の育成支援を積極的に行っています。

② (有)下呂特産加工 / (株)マンナン工房ひだ(下呂市)



6次産業化に取組み、地元産のこんにゃく芋、トマトを使って加工品開発を行っています。

③ 新規就農者育成フォーラム(下呂市)



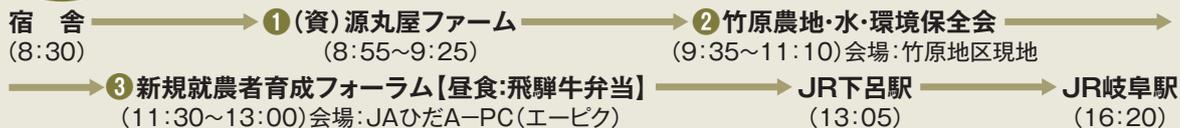
若手・女性農業者らがこだわり農産物の取組みを紹介し、試食を交えながら参加者同士の交流を深めます。



コース
I-2

豊かな自然と農村文化の継承で地域の和を広げる山あいのむらづくりコース

下呂市竹原地区は、典型的な中山間地域です。良食味米の生産販売に取り組む中山間地の水田農業や、農村地域が一丸となって積極的に取り組んでいる豊かなむらづくりの活動を紹介します。



① (資)源丸屋ファーム (下呂市)



コシヒカリの約1.5倍の大きさの「いのちの杏」を生産販売し、毎年各種食味コンクールで受賞しています。

② 竹原農地・水・環境保全会 (下呂市)



「豊かな郷土づくり」をテーマとして長年、農地水環境保全や農村文化の伝承活動に取り組んでいます。豊かなむらづくり全国表彰事業で農林水産大臣賞受賞しました。

③ 新規就農者育成フォーラム (下呂市)



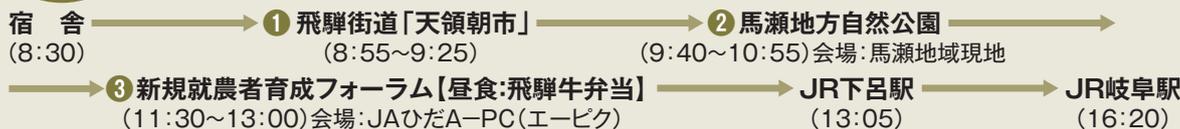
若手・女性農業者らがこだわり農産物の取組みを紹介し、試食を交えながら参加者同士の交流を深めます。



コース
I-3

清流馬瀬川のほとり、日本で最も美しい村の集"楽"営農コース

地元商店街の朝市の散策や、日本で最も美しい村連合に加盟する下呂市馬瀬地域の自然を活かした個性あるむらづくり活動と集落営農法人による水田農業を紹介します。



① 飛騨街道「天領朝市」 (下呂市)



地元農産物加工品の販売のほか地元高校等が出店する商店街の朝市です。

② 馬瀬地方自然公園 (下呂市)



地域全域で自然を活かした個性あるむらづくり活動を展開し、ディスカバー農山漁村(むら)の宝に選定されました。都市住民との交流活動や、集落営農法人による水田農業も盛んに行われています。

③ 新規就農者育成フォーラム (下呂市)

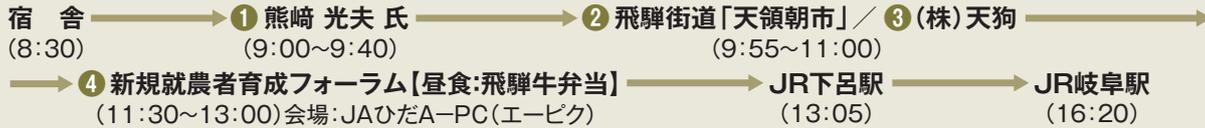


若手・女性農業者らがこだわり農産物の取組みを紹介し、試食を交えながら参加者同士の交流を深めます。



飛騨牛の里、優良な血統を受け継ぐ南飛騨の和牛改良コース

県有種雄牛の優良系統を用いた和牛改良の取組み、地元商店街の朝市を散策しながら、飛騨牛の販売や農商工連携の取組みを紹介します。



くまざき みつお
① 熊崎 光夫 氏(下呂市)



県有種雄牛を交配し、和牛改良に取組む南飛騨を代表する繁殖農家です。

※防疫対応のため、バス車内からの視察となります。

てんりょう
② 飛騨街道「天領朝市」(下呂市)



地元農産物加工品の販売のほか地元高校等が出店する商店街の朝市です。

てんぐ
③ (株)天狗(下呂市)



飛騨牛販売指定店として飛騨牛の販売のみならず、農商工等連携事業計画に認定を受けた新ブランド「飛騨納豆喰豚(なっとく豚)の普及に取組んでいます。

④ 新規就農者育成フォーラム(下呂市)



若手・女性農業者らがこだわり農産物の取組みを紹介し、試食を交えながら参加者同士の交流を深めます。

ユネスコ
世界記憶遺産

岐阜県が世界に誇る歴史と文化 ⑤

杉原千畝 命のビザ

第二次世界大戦中、ユダヤ難民への日本通過ビザ発給により、約6000人もの命を救った「杉原千畝」。戦争という悲惨な状況下で杉原千畝が一人の人間として信念を貫き行った人道的行為は、現代、そして後世に広く伝えるべき記憶です。

2017年夏頃に「命のビザ」の記載があるパスポートを含めた文書等(杉原リスト)の登録の可否が審査される予定です。

登録候補



資料協力
八百津町・杉原千畝記念館